

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	092 国際戦略総合特区推進事業									
予算科目	01-020108-16 科学技術振興に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約						係名	共創イノベーション係			
戦略プラン						新規・継続	継続			
						事業分類	自治事務（任意）			
						事業体制	職員のみ			
個別計画	総合特別区域計画					事業期間	期間限定複数年度			
根拠法令等						SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう			

事業の概要

対象	市内の研究機関、企業等									
目的	特区プロジェクト等の推進や新たなプロジェクトを創出、推進するため									
概要 (取組内容)	組織の垣根を超えた新しい産学官連携の核となる組織（一社）つくばグローバル・イノベーション推進機構（TGI）と連携し、特区プロジェクト等を創出・推進することにより、新事業・新産業の創出に取り組む。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
事業費	予算額	(千円)	9,851	9,265	9,275	9,669	9,669
	決算額	(千円)	9,307	9,208	8,805	0	0
	内訳 一般財源	(千円)	9,307	9,208	8,805	0	0
	国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	2,264	2,982	3,078	2,945	2,945
	内訳 正職員従事割合	(人)	0.30	0.40	0.40	0.40	0.40
	正職員時間外勤務	(時間)	90.25	90.25	75.03	75.03	75.03
	会計年度任用職員有無	(一)	無	無	無	無	無

市民参加の取組状況

共有、理解	事業に関する情報を発信
企画・立案、計画	－
実行	－
評価、検証	－

指標の推移

1	指標名	連携企業数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	486.0	641.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	616.0	685.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要	科学技術の集積を活用したライフイノベーション及びグリーンイノベーションの推進による産業化促進のための連携企業数（累計）※H29年度～R2年度第2期計画の指標、※H28年度までは新たなプロジェクト創出数					

2	指標名	連携企業数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	180.0	360.0	540.0	720.0
	実績	0.0	0.0	194.0	461.0	580.0	707.0
	指標の概要	科学技術の集積を活用したライフイノベーション及びグリーンイノベーションの推進による産業化促進のための連携企業数（累計） ※R3年度～R7年度第3期計画指標、第2期の指標を継続設定)					
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		・ 特区ホームページの情報更新により市民への周知を行った。 ・ 第三期計画の期間満了に向けた各プロジェクトの取組状況の整理を行った。
成果		T G I を中核組織として、研究機関と企業のマッチング機会を創出する技術相談のワンストップ窓口支援や創薬プロジェクト（つくばライフサイエンス推進協議会に関する事業）の運営会議や人材育成等の活動を行った。
課題	業務	各プロジェクトの取組状況に関する市民への情報発信 第三期計画の期間満了後の取扱いの整理
	組織、予算等	
改善目標		第三期計画の期間満了に向けた茨城県と T G I との連携。

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	—

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	094 市内大学・研究機関等との連携事業									
予算科目	01-020108-17 科学の街つくば推進に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約						係名	科学の街推進係			
戦略プラン						新規・継続	継続			
						事業分類	自治事務（任意）			
						事業体制	職員のみ			
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）					事業期間	毎年度			
根拠法令等						SDGs	08働きがいも経済成長も			
							09産業と技術革新の基盤をつくろう			
							11住み続けられるまちづくりを			

事業の概要

対象	市内大学・研究機関・企業・研究交流事業や科学技術啓発事業等を行う団体									
目的	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）で掲げた基本理念の実現に向け、研究機関等との連携を戦略的に進めることにより、専門的知見を活用した行政体制の構築、防災体制の強化等に資する。									
概要 （取組内容）	市内各大学・研究機関のそれぞれの特徴をいかしながら、基本協定の締結や連携事業を推進する。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	668	612	825	825	825	
	決算額	(千円)	911	613	701	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	911	613	701	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	6,891	7,271	7,460	7,271	7,271	
	内訳	正職員従事割合	(人)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		正職員時間外勤務	(時間)	33.00	150.00	94.00	150.00	150.00
		会計年度任用職員有無	(一) 有	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	ホームページやSNSでの情報発信
企画・立案、計画	—
実行	—
評価、検証	—

指標の推移

1	指標名	新規協定締結数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	実績	0.0	3.0	1.0	1.0	1.0	0.0
	指標の概要						

2	指標名	連携事業数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0
	実績	31.0	28.0	34.0	25.0	44.0	43.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		人員不足の直接的な解決には至っていないが、限られた人員で市としての協力の可否等を検討しつつ、連携推進を図った。
成果		市ホームページのサイエンスインフォメーションや広報紙への情報掲載等、研究機関の広報支援を行うことで、研究機関に関する情報発信を行うことができた。筑波研究学園都市交流協議会（筑協）を通じて、機関長間の議論が活性化し、研究学園都市の課題について主体的に関わる機運が醸成された。
課題	業務	既存の事業の部署移管や一部アウトソース等の見直しが必要と思われる。また、研究学園都市の研究開発力向上に必要な高度研究人材の獲得に向けた国内外へのPRが不足している。
	組織、予算等	連携先の新規拡充、更なるPRの推進を進めるための人員不足が懸念される。
改善目標		研究機関との連携はもとより、市民に「科学の街」と感じてもらうための市民へ発信するPRを強化する。

評価

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	—

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	097 ロボットの街つくば推進事業									
予算科目	01-020108-18 ロボットの街つくば推進に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約						係名	共創イノベーション係			
戦略プラン						新規・継続	継続			
						事業分類	自治事務（任意）			
						事業体制	職員のみ			
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）					事業期間	毎年度			
根拠法令等	「ロボットの街つくば」の実現に向けて（提言）、新たなつくばのランドデザイン					SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう			

事業の概要

対象	市民、教育・研究機関、企業等									
目的	ロボットの実用化や人材育成、先進技術・データを活用したまちづくりを行い、超高齢化社会及び低炭素社会への対応、観光等の地域活性化に貢献する。									
概要 （取組内容）	つくモビに関する実証実験やつくばチャレンジ、Global Innovation Challenge等のロボット実験を通じて、国に規制緩和を要望していくなど、ロボットの実利用環境の構築及び社会実装を推進する。 国のMaaS(Mobility as a Service)の取組との連携や他自治体、大学、民間事業者等との新たな連携など、次世代モビリティの社会実装に係る取組を推進する。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	7,470	5,099	4,793	0	0	
	決算額	(千円)	6,446	4,023	3,834	0	0	
	内 訳	一般財源	(千円)	6,446	4,023	3,834	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	7,031	7,126	7,692	0	0	
	内 訳	正職員従事割合	(人)	1.00	1.00	1.00	0.00	0.00
		正職員時間外勤務	(時間)	90.25	90.25	187.33	0.00	0.00
		会計年度任用職員有無	(一) 有	有	無	無	無	

市民参加の取組状況

共有、理解	広報誌、ホームページやSNSでの情報発信
企画・立案、計画	イベント見学、小中学生のつくばチャレンジ運営体験イベントの実施
実行	—
評価、検証	—

指標の推移

1	指標名	ロボットのまち中実証実験数（種類）（件）					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	実績	10.0	3.0	2.0	3.0	4.0	4.0
	指標の概要	ロボットのまち中実証実験数（種類）※H26年度までの指標は、実験回数、実験走行距離（目標値：150回、5,000km / 実績値：153回、3,653km）					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		- つくばチャレンジの認知度向上のため、前年に引き続き、人が集まる場として「ショッピングモール」を実験の場として選定した。 - Global Innovation Challengeでは、コンテストの理解促進のための周知を行った。
成果		- つくばチャレンジは市役所周辺及び研究学園駅前公園並びにショッピングモールにおいて実施。 - Global Innovation Challengeは、前年度比1チーム増でのデモンストレーションを実施。 - パーソナルモビリティのシェアリングサービス導入によるつくば駅周辺の賑わい創出を目的とした実証を実施。また、通勤や通学等における移動手段としての実用可能性実証も実施。
課題	業務	つくばチャレンジ運営体験会について、より興味のある内容への刷新が必要。 GlobalInnovationChallengeの技術について、周辺のみならず市民の認知度向上が必要。
	組織、予算等	
改善目標		つくばチャレンジ子供体験会についてSTEAMの考え方及び学びを追加した内容に刷新。参加者一日5人かける4日で20人とする。 GlobalInnovationChallengeにおいて活用された技術の市民への周知を行う。

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	4	市の関与の必要性が高い事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	—

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	095 次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業（科学教育推進事業）									
予算科目	01-020108-17 科学の街つくば推進に要する経費					担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約	31-1						科学の街推進係			
戦略プラン	Ⅲ-2	1	3	科学教育の推進と批判的思考の育成			新規・継続	継続		
							事業分類	自治事務（任意）		
							事業体制	職員のみ		
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）、つくば市教育大綱、つくば市教育振興基本計画					事業期間	毎年度			
根拠法令等						SDGs	08働きがいも経済成長も			
							09産業と技術革新の基盤をつくろう			
							11住み続けられるまちづくりを			

事業の概要

対象	児童・生徒、市内大学・研究機関・企業・研究交流事業や科学技術啓発事業等を行う団体									
目的	大学・研究機関・企業等の集積を生かし、科学技術関連イベントを連携して実施・開催すること等を通じて、次代を担う人材育成や一般市民の科学技術に対する理解醸成を図る。									
概要 （取組内容）	つくば科学教育マイスター制度や体験型科学教育事業等を通じて科学教育を推進する。 筑波大学と連携し、地域の特色ある研究者を紹介するコンテンツ事業とコミュニケーションを重視した体験型イベントを実施する。 SNS広告を活用し、科学技術関連情報に興味・関心を持つ層に対してニーズに応じた情報を発信する。 つくばサイエンス・アカデミーと連携し、飛躍的な研究成果が期待できる若手研究者につくば奨励賞を授与する。 科学の甲子園全国大会等の科学イベントを市内で開催する。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	7,806	13,232	14,648	15,964	15,964	
	決算額	(千円)	6,691	11,493	14,020	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	6,691	5,202	5,378	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	4,195	5,100	0	0
		その他	(千円)	0	2,096	3,542	0	0
人件費	人件費計	(千円)	7,006	14,129	11,189	14,129	14,129	
	内訳	正職員従事割合	(人)	1.00	2.00	1.50	2.00	2.00
		正職員時間外勤務	(時間)	80.00	130.00	141.00	130.00	130.00
		会計年度任用職員有無	(一) 有	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	ホームページやSNSでの情報発信
企画・立案、計画	—
実行	—
評価、検証	協力研究者、学校等へのアンケート

指標の推移

1	指標名	体験型科学教育事業の延べ参加者数（人）					成果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0
	実績	495.0	57.0	246.0	346.0	437.0	580.0
	指標の概要	つくば市SDGs 未来都市計画：Ⅲ 未来をつくる人が育つまち 指標：つくばSTEAM コンパス事業の延べ参加者数					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		STEAM教育授業を持続的に提供していくために必要な研究者等の協力人材を確保するため、市内大学・研究機関向けに事業説明会を開催し、事業周知並びに新規協力者の開拓を行った。
成果		市内小・中学校6校でSTEAM授業を実施するとともに、協力人材を確保する方策を検討した。筑波大と連携し、中高生に共感を得やすい漫画による研究者紹介の発信と、研究者と学生が対話するイベントを実施しSNS広告により情報発信を強化した。令和4年度から連携を開始したZ0Z0によるキャリア教育について令和6年度は13校で実施した。つくば奨励賞を実用化研究部門副賞及び若手研究者部門副賞を授与した。
課題	業務	STEAM教育授業については、将来的な自走化に向け、研究者等の協力人材の確保が必要である。
	組織、予算等	学校でのSTEAM教育授業の展開も軌道に乗ってきたことから、教育局への移管を含めた実施体制の検討が必要である。
改善目標		STEAM教育の自走化に向けた人材確保に向けたプログラムの実行を進めるとともに、実施体制の検討を行う。

評価

市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	4	市の関与の必要性が高い事業である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	拡大・拡充
理由	市内小中学校でSTEAM教育を展開することは国の方向性とも合致しており、デジタルの力を活用したSTEAM教育環境を構築する本事業は地方創生に寄与する取組である。

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	009 未来共創プロジェクトの実施										
予算科目	01-020108-16 科学技術振興に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課				
市長公約							係名	共創イノベーション係			
戦略プラン	IV-1	1	1	未来共創プロジェクトの実施			新規・継続	継続			
							事業分類	自治事務（任意）			
							事業体制	職員のみ			
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）						事業期間	毎年度			
根拠法令等							SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう			

事業の概要

対象	全国の企業、研究機関、教育機関等									
目的	官民協働による近未来技術等の社会実装の推進を図る。									
概要 (取組内容)	市内において新しい未来を創るための先端技術や近未来技術等を取り入れようとする者に対し、実証実験の提案を受け付ける窓口を開設し、実証実験の支援等を行う。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
事業費	予算額	(千円)	0	0	0	0	0
	決算額	(千円)	0	0	0	0	0
	内訳	一般財源	(千円)	0	0	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	5,668	2,982	3,078	5,799	5,799
	内訳	正職員従事割合	(人)	0.80	0.40	0.40	0.80
		正職員時間外勤務	(時間)	90.00	90.00	74.93	112.40
		会計年度任用職員有無	(一)	無	無	無	無

市民参加の取組状況

共有、理解	事業に関する情報を発信
企画・立案、計画	－
実行	実証実験の関係者やモニターとしての協力
評価、検証	－

指標の推移

1	指標名	申請件数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
	実績	6.0	4.0	4.0	8.0	0.0	0.0
	指標の概要	(IV-1-①新たな共創の仕組みづくり) 未来共創プロジェクト事業への申請件数					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		庁内部署から本事業での相談を受けることで、実証実験の相談窓口としての役割を強化し、認知度の向上にもつながった。
成果		・ 3 件の相談受付があり、本事業での実証実験には至らなかったが、相談者が行うセミナー等の周知支援をアナウンスする等、相談者への間接的支援を行い、寄り添った事業運用を行うことができた。
課題	業務	・ 実証実験の成果を本市の課題解決に繋げること。 ・ 事業の認知度向上が必要である。
	組織、予算等	・ 相談受付後の関係部署へのつなぎ方及び関わり方について ・ 庁内部署からの相談に対する支援の在り方について
改善目標		・ 事業の活用について、市民及び庁内への周知を行い、認知度を向上させ、実証実験を活用した課題解決につなげる。

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	3	やや遅れたが、今年度の事業計画は達成された。
市の関与	1	市が関与する度合が低く、民間等への移管の検討が必要である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	継続
理由	—

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	093 Society 5.0社会実装トライアル支援事業									
予算科目	01-020108-16 科学技術振興に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約	116					係名	共創イノベーション係			
戦略プラン	IV-1	2	1	社会実装トライアルの支援			新規・継続	継続		
							事業分類	自治事務（任意）		
							事業体制	職員のみ		
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）					事業期間	毎年度			
根拠法令等						SDGs	08働きがいも経済成長も			
							09産業と技術革新の基盤をつくろう			
							11住み続けられるまちづくりを			

事業の概要

対象	全国の企業、研究機関、教育機関等									
目的	新たなビジネスモデルの開拓を加速させるとともに市民生活の向上及び地域経済の活性化さらには先進的な取組に挑戦するまちとしてのプレゼンス確立に貢献する。									
概要 (取組内容)	IoTやAIなどの革新的な技術を活用した製品、サービス等の社会実装に向けたトライアル（実証実験）を全国から公募し、実験場の提供やモニターの確保、費用補助等の支援を行う。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
事業費	予算額	(千円)	6,456	6,746	6,471	7,158	7,158
	決算額	(千円)	5,875	4,677	4,985	0	0
	内訳	一般財源	(千円)	2,938	0	662	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	2,937	2,338	2,323	0
		その他	(千円)	0	2,339	2,000	0
人件費	人件費計	(千円)	4,944	5,720	6,154	17,394	17,394
	内訳	正職員従事割合	(人)	0.70	0.80	0.80	2.40
		正職員時間外勤務	(時間)	72.20	80.00	149.80	337.20
		会計年度任用職員有無	(一)	無	無	無	無

市民参加の取組状況

共有、理解	事業に関する情報を発信
企画・立案、計画	－
実行	実証実験の関係者やモニターとしての協力
評価、検証	－

指標の推移

1	指標名	フィールド実験の実施件数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	実績	4.0	5.0	6.0	5.0	5.0	4.0
	指標の概要	(IV-1-②社会実装の推進によるイノベーション創出)「Society 5.0（超スマート社会）」の実現を目指したフィールド実験の実施件数 ※R1年度は採択5件のうち1件辞退					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		・ SNSでの周知、スタパイメントでの成果報告、ホームページへの取組概要掲載により、市民が事業に触れる機会を取入れ、認知度向上を行った。 ・ 各関係部署と連携体制を構築し、市の課題解決に資する事業となるよう、実証実験の支援を行った。
成果		・ 提案16件のうち 4 件の実証実験を採択及び支援した。 ・ 次年度の事業運用方法を見直し、公募期間の前倒しにより実証実験期間の拡大を実現した。また、新たな部門としてデータ連携基盤部門を創設した。
課題	業務	支援事業の成果を社会実装に繋げること、また、成果を市の課題解決や市民生活の向上に結びつけていくこと
	組織、予算等	令和 8 年度以降の交付金終了後の事業運用に関する財源の整理
改善目標		・ 実証結果の成果を市の課題解決につなげるため、庁内関係部署との連携を強化する。

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	4	市の関与の必要性が高い事業である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	継続
理由	－

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	045 市場・市民ニーズ調査事業（旧：未来技術等社会実装支援事業（仮称））									
予算科目	01-020108-16 科学技術振興に要する経費					担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術戦略課 共創イノベーション係			
市長公約										
戦略プラン	IV-1	2	2	近未来技術等の社会実装の推進			新規・継続	継続		
							事業分類	自治事務（任意）		
							事業体制	職員のみ		
個別計画	つくば市科学技術・イノベーション振興指針（第3期）					事業期間	毎年度			
根拠法令等						SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう			

事業の概要

対象	市民、教育・研究機関、企業等									
目的	実証実験後のアフターフォローとして、実用化の直前あるいは実用化初期段階の支援を通じて、地域課題の解決や未来技術の質の改善を図り、市民生活の向上や地域経済の活性化を目指すこと									
概要 （取組内容）	市域で実証した未来技術について、市民や市内事業者技術やサービスをホームユーステストとして試してもらい、市場性や改善すべき点などの調査を実施する。なお、調査方法としては、開発事業者がその技術やサービスの提供を行い、そのために必要な事前の改良費用やモニター利用料などを市が負担する形で、開発事業者と市が共同で行うことを想定している。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
	決算額	(千円)	1,214	894	1,000	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	607	448	500	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	607	446	500	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	2,871	2,909	3,078	3,036	3,036	
	内訳	正職員従事割合	(人)	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
		正職員時間外勤務	(時間)	60.00	60.00	75.00	112.55	112.55
		会計年度任用職員有無	(一)	無	無	無	無	無

市民参加の取組状況

共有、理解	事業に関する情報を発信
企画・立案、計画	－
実行	先端的なサービスや製品の試用
評価、検証	－

指標の推移

1	指標名	製品等の試用件数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	実績	0.0	0.0	1.0	2.0	2.0	1.0
	指標の概要	(IV-1-②社会実装の推進によるイノベーション創出) 本事業で支援した製品・サービスの件数					

2	指標名	(0)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		過年度、Society 5.0社会実装事業及び未来共創プロジェクト事業による実証実験実施者に対して事業案内を行った。
成果		・申請1件の共同事業を実施。 ・パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートサービス（アプリ）を、妊娠、育児期の女性28名のモニターに試用してもらい、操作性や可視化データの見難さなど、使用感に関する課題抽出となり、改修につながった。
課題	業務	申請が可能な事業者への事業の周知。 支援事業の成果を社会実装に繋げること。
	組織、予算等	令和8年度以降の交付金終了後の財源の整理
改善目標		事業を円滑に実施しつつ、過去5年間の事業成果を検証し、今後の事業の在り方について整理する

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	4	市の関与の必要性が高い事業である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	継続
理由	—

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	011 スマートシティの推進										
予算科目	01-020108-19 スマートシティ推進に要する経費					担当部課	政策イノベーション部科学技術戦略課				
市長公約	1		2		3	47	係名				
戦略プラン	IV-3	1	1	地域の課題解決のためのスマートシティの			新規・継続	新規			
							事業分類	自治事務（任意）			
							事業体制	職員のみ			
個別計画	つくば市科学技術振興指針（第2期）、つくば中心市街地まちづくり戦略						事業期間	毎年度			
根拠法令等	国家戦略特別区域法、未来投資戦略、つくばスマートシティ倫理原則、スーパーシティ基本方針						SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう			
								11住み続けられるまちづくりを			

事業の概要

対象	市民、教育・研究機関、企業等									
目的	民間事業者等との公民連携を進め、革新的な技術や多様なデータの連携による新たなサービスを迅速に社会実装することで、誰もが安全、安心、便利で快適な生活を送ることのできる未来都市を構築する。									
概要 （取組内容）	国が進めるスマートシティ、スーパーシティ構想等の枠組みを最大限活用することで規制緩和を図り、大学・研究機関、企業等が持つ革新的技術と多様なデータ連携による新しいサービスの社会実装を推進する。具体的には、AI、IoT、ロボティクス、MaaS、ブロックチェーンといった先端技術を活用し、次世代モビリティサービス、多言語情報ポータルサイト、インターネット投票などの地域課題の解決に資するサービスを展開する。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	67, 211	204, 524	131, 502	131, 502	131, 502	
	決算額	(千円)	83, 104	176, 659	96, 968	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	36, 612	93, 008	70, 247	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	46, 492	83, 651	26, 721	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	29, 398	38, 074	47, 426	45, 414	45, 414	
	内訳	正職員従事割合	(人)	4. 00	5. 00	6. 00	6. 00	6. 00
		正職員時間外勤務	(時間)	882. 50	1, 460. 00	1, 639. 00	1, 639. 00	1, 639. 00
		会計年度任用職員有無	(一) 無	無	無	有	有	

市民参加の取組状況

共有、理解	住民説明会、アンケート、ホームページ・つくスマ・SNSでの情報発信 等
企画・立案、計画	住民説明会 等
実行	アンケート、インターネット投票実証、スマートフォン教室 等
評価、検証	住民説明会 等

指標の推移

1	指標名	先端技術を活用した新たなサービスの社会実装数 (件)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	実績	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0
	指標の概要	個別施策の指標「スマートシティの推進に係るプロジェクトの利用者満足度を増加させます。」を達成するために、事務事業の指標として「先端技術を活用した新たなサービスの社会実装数」を設定する。					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		デジ田交付金や内閣府調査事業等を活用して様々な実証を進めた。また実証から実装へ重点的に取り組むフェーズに切り替えるために、市民アンケートやインターネット投票により住民ニーズと技術完成度をかけ合わせて先行実現させていく重点事業を明確化し、取組方針を検討した。
成果		スーパーシティ型国家戦略特別区域の区域計画変更を行い、データ連携基盤整備事業実施主体の「つくばスマートシティ協議会」を任意団体から一般社団法人に移行し、ガバナンスを強化した。これまで実証を重ねてきた小児オンラインかかりつけ医については、「休日夜間小児デジタル急患センター」として実装した。また、インターネット投票、ハンズフリーチケットティング等の様々な実証に取り組んだ。
課題	業務	住民ニーズを継続的に把握する仕組みの構築及び実装に向けた取組の加速化
	組織、予算等	国等の補助金の効果的な活用
改善目標		住民ニーズを継続的に把握する仕組みの構築の検討を進めるとともに、スーパーシティの取組をフェーズアップさせてスーパーシティ構想2.0を打ち出し、構想実現に向けた取組を加速させる。

評価

市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	3	民間活力や民間ノウハウを活用できる事業である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	拡大・拡充
理由	自動運転バス等実証事業、オープンデータ分析プラットフォーム整備委託料、ヘルスケアデータ連携サービス創出調査委託料等の取組拡充のため

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	012 デジタル情報プラットフォームの導入による地域との連携推進									
予算科目	01-020108-19 スマートシティ推進に要する経費					担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術戦略課			
市長公約	1		2		3			47		
戦略プラン	IV-3	2	5	デジタル情報プラットフォームの導入によ			新規・継続	新規		
							事業分類	自治事務（任意）		
							事業体制	一部委託		
個別計画	つくば市デジタル・ガバメント推進方針、つくば市科学技術振興指針（第2期）						事業期間	毎年度		
根拠法令等	国家戦略特別区域法、未来投資戦略、つくばスマートシティ倫理原則、スーパーシティ基本方針						SDGs	09産業と技術革新の基盤をつくろう		
								11住み続けられるまちづくりを		

事業の概要

対象	市民、教育・研究機関、企業等									
目的	市民等の住民福祉・利便向上を図る。庁内や地域からの情報提供の共通基盤を整備し、これと連携する様々な市民向け情報提供アプリケーションの開発及び機能拡張に取り組む。									
概要 (取組内容)	国が進めるスマートシティ、スーパーシティ構想等の枠組みを最大限活用することで、様々なデータを分野横断的に収集・整理し提供する「デジタル情報プラットフォーム」（データ連携基盤、都市OS）を構築し、産学官民が連携し活用することで、市民等に様々なサービスを提供する。									

コストの推移

項目			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
事業費	予算額	(千円)	39,323	40,228	141,124	68,499	68,499	
	決算額	(千円)	35,358	36,145	63,635	0	0	
	内訳	一般財源	(千円)	17,681	18,073	53,931	0	0
		国庫、県支出金、地方債	(千円)	17,677	18,072	9,704	0	0
		その他	(千円)	0	0	0	0	0
人件費	人件費計	(千円)	18,374	22,845	23,384	22,418	22,418	
	内訳	正職員従事割合	(人)	2.50	3.00	3.00	3.00	3.00
		正職員時間外勤務	(時間)	551.57	876.00	687.00	700.00	700.00
		会計年度任用職員有無	(一) 無	無	無	無	無	無

市民参加の取組状況

共有、理解	住民説明会、アンケート、ホームページ・つくスマ・SNSでの情報発信、アイデアソン 等
企画・立案、計画	住民説明会、アイデアソン 等
実行	つくスマ（ダウンロード） 等
評価、検証	住民説明会 等

指標の推移

1	指標名	デジタル情報プラットフォームの利用事業者数 (社)					活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	実績	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	3.0
	指標の概要	(IV-3-②データで市民を豊かにするまちの推進) デジタル情報プラットフォームを利用してサービスを提供する事業者の数					

2	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
3	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
4	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						
5	指標名	()					
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		市民向けポータルアプリ「つくスマ」において、民間企業が運営する移動スーパーの位置情報をデータ連携基盤を通して取得し、現在地を表示するサービスを提供した。
成果		「パーソナルモビリティを活用した回遊性向上サービス実証事業」において、回遊性向上に資する情報（イベント情報、店舗情報等）を基盤を通じて取得し、マップアプリ上で表示した。さらに、「生成ＡＩによる住民意見の見える化事業」において、元データとなる住民意見（市議会議事録）を基盤から取得し、当該データを生成ＡＩで整理する取組を行った。
課題	業務	データ連携基盤を活用したサービスの拡充
	組織、予算等	
改善目標		事業者と連携し、引き続きデータ連携基盤を活用したサービスの創出に努める。

評価

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。
市の関与	4	市の関与の必要性が高い事業である。
優先度	5	戦略プラン等に掲げられた市の重点事業であり、優先的に取組む必要性が高い。

方向性

方向性	継続
理由	－